2024年度

実施効果報告レポート

【事業者名】
株式会社メディア・ファイブ

【サービス名】
①ラーニングスケルトンAI（中学校向け基本パッケージ）
②ラーニングスケルトンAI（高校一般向け基本パッケージ）

【支援項目】
①授業、授業準備、成績処理
②授業、授業準備、成績処理

2025年1月

学校活動支援サービスの概要

◎Chat GPTを搭載した教育総合ポータル「ラーニングスケルトンAI®」。

学習、教職員業務支援に有効活用いただけます

【サービスの内容】

・基本システム（コネクトシート、ドリル、ドリル編集、AI探究（Chat GPT3.5※含む）等）

・サポート（マニュアル提供、導入時研修、導入後研修・サポート、ツール保守等）

・ドリルコンテンツ
<中学校向け基本パッケージ>
漢字検定（4級、3級、準2級、2級）、新MSU中学数学（1～3）、英検（3級、準2級、2級）
<高校一般向け基本パッケージ>
英検（3級、準2級、2級）、ITパスポート試験、基本情報技術者試験

・AI英会話、AI英作文、AI問題自動作成ツール（Chat GPT4.0含む）、

・日経パソコンEdu

※2025年1月現在は　4 o-miniを提供

◆授業

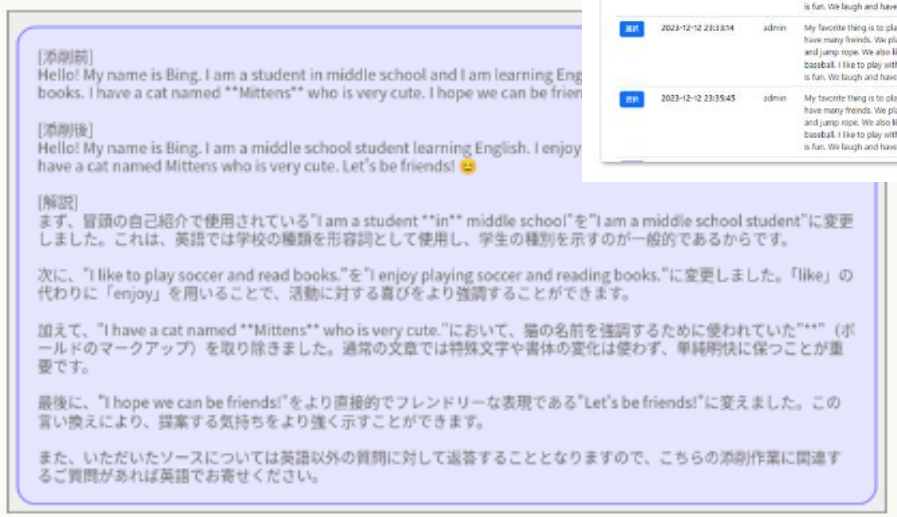
●AI英会話・AI英作文

英作文の添削や英会話の相手、といった業務をAIが代わりに行います

AI英会話

１段目はテキスト入力。２段目は音声入力での「Good morning」。
どちらもレスポンスがものすごく早く、他の生成AI（Bard、Coplilot、GPT-3.5）などと比較すると、数倍の早さ。
また、音声会話に引き込もうとしたり、日本語で入力すると英語で書かない？と投げかけてきたりと、会話ベースの英語の学習に特化している印象をもつ。

AI英作文



実際にどの程度優先的にアクセスできているのかはわかりませんが、この出力であれば日常業務で問題はないと思われます。（直接GPTにアクセスしてしまうと、違うことに目的意識が行ってしまう・・・可能性がありますので、こういった専用画面で操作できることには学習ツールとして大いに意味があると思われます。）
文ごとに解説が入っており、実際の学習場面・指導場面においては非常に使いやすいです。一度に長文理解しなくても良いのはメリットです。

実際にここまで丁寧な（教科書にも出てこないような）表現や文法などは指導する事自体は現実的にかなり厳しいので、家庭学習や自習などでの、個人の利活用が望まれます。
ロそうなると、コピペなどの事案が想定されるので、私たち自身がAI利用前提の授業スタイルへとどんどん変えていく必要がありますね。

◆授業準備

●コネクトシート

授業で使用する教材シート（コネクトシート）はAIや問いかけテンプレートを活用すれば効率的に作成できます
学習指導案や、演習問題なども作成できます

POINT その1　ツインAIシステムで瞬時の教材作成！

ツインAIシステム
実用新案登録
登録第3244670号

生成AIで全体を把握する → AI探究 → AI探究個々を確認する → 真実を見つける

問いかけテンプレートの活用

生成AIのもっともすぐれた解答を求めるには、優れた問いかけが必要です。
問いかけのテクニックを身に付けなければなりません。それは問いかけテンプレートを使いこなすことで飛躍的に、効果的な解答を得ることができます。自分で問いかけを作成し、保存することもできます。

生成AIの活用

コネクトシート上の文字、文章フィールドを選択して、「AI探究ボタン」を押すと、生成AIが作動して、別ウインドウで、回答してくれます。
ここで問いかけの全体像を把握します。しかし正確とは限りませんので、「AI探究」ボタンで個別に正確か確認します。

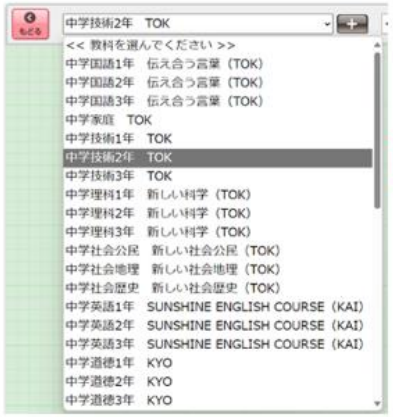
AI探究ボタンの活用

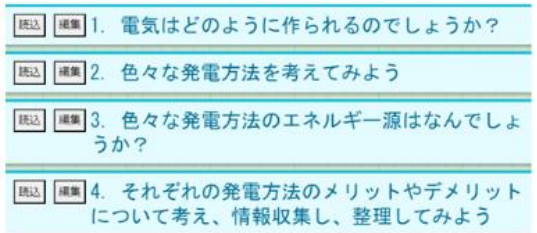
なにも選択せずにAI探究ボタンを押すと、コネクトシート上に載っている項目から関連する重要キーワードをピックアップし、web情報と論文情報（Google schalor）、YouTube情報を一覧表示します。
生成AIの回答をここで正確か点検することができます。

問いかけテンプレート

教科書の各ページに対応した、ChatGPTで活用できる問いかけテンプレートが豊富に活用できます！

すべての教科書に対応します！





編集機能がついているので自分なりに編集して効果的に活用できます。

●AIドリル作成

中学、高校で学習する教科の演習問題をAIにより自動作成できます
作成した問題はPDF化して印刷、あるいは、eラーニングにもできます

AIドリル作成

あらゆる教科を自動問題作成・自動テスト作成 教科書の該当ページの問題も瞬時に自動作成！

解答方式を設定して、問題テーマを設定すれば簡単に問題を作れます。

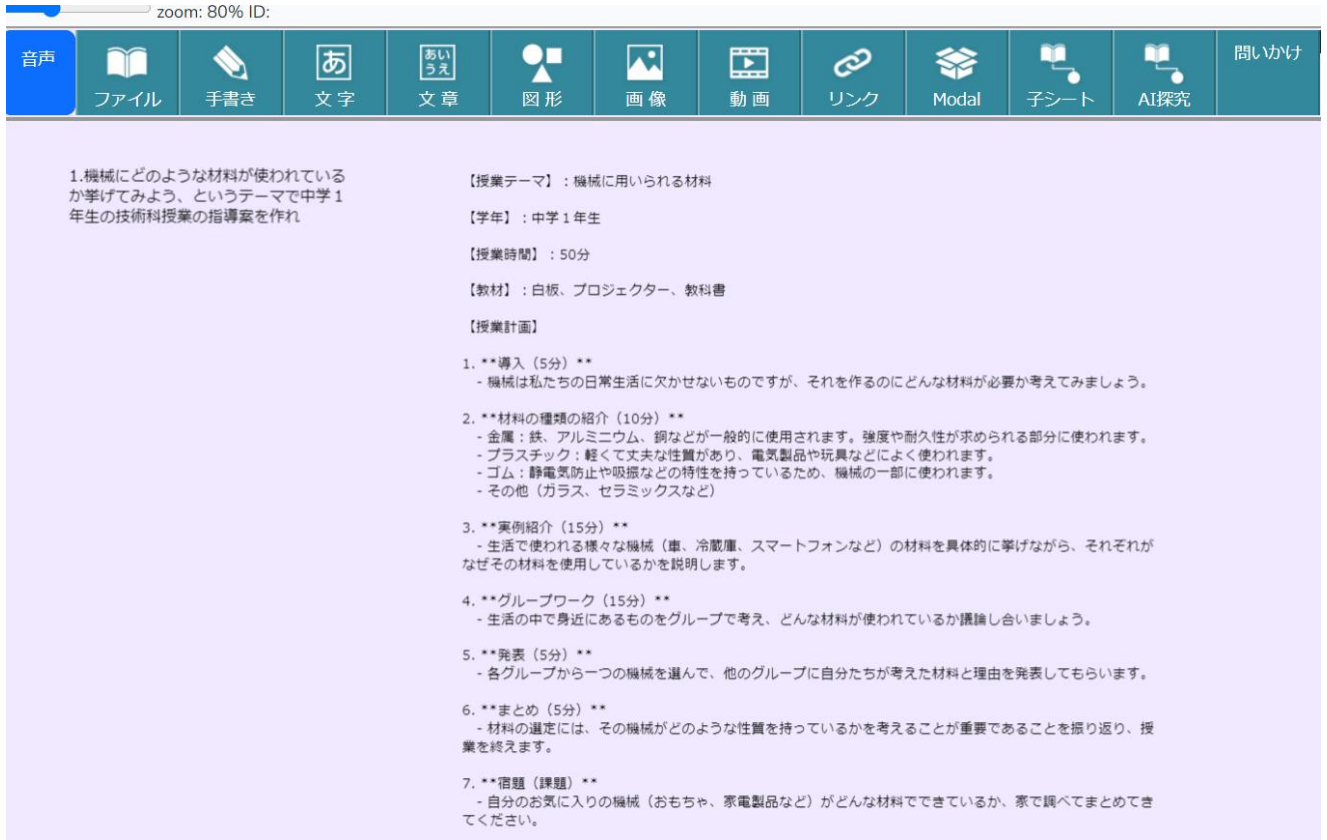
自動登録

アンケートも自動作成できます。

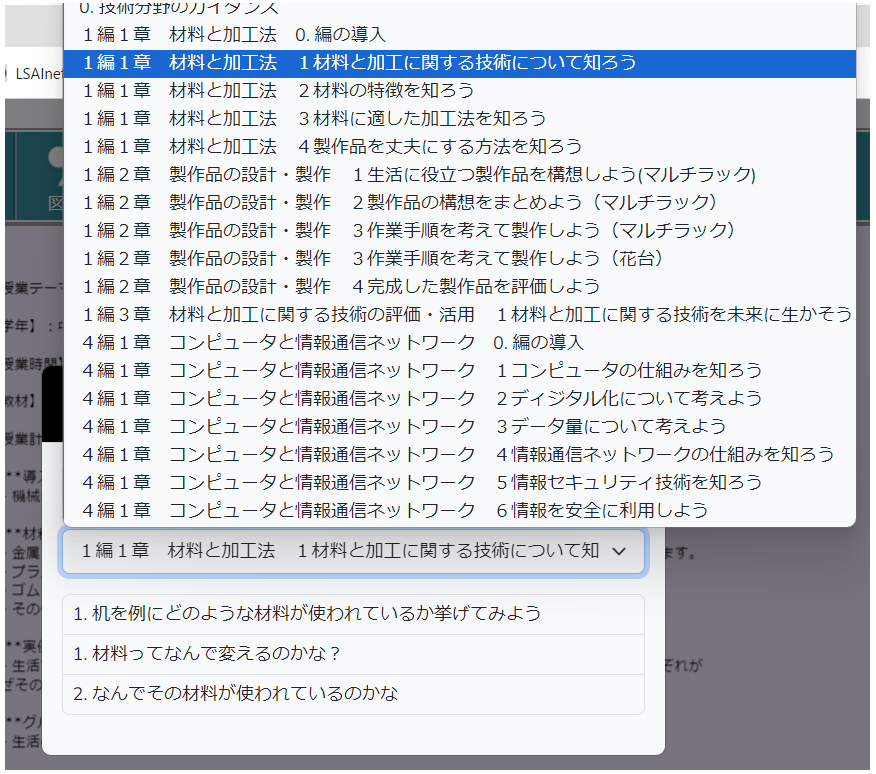
eラーニング作成

ペーパーテスト作成

●指導案作成



教科書に対応した問いかけテンプレートを選ぶと、選んだ問いかけがプロンプトとなり、ＡＩが指導案を作成してくれます。



●試験問題作成（AIドリル作成機能）

中学、高校で学習する教科の試験問題をAIにより自動作成でき、PDF化し印刷して提供できます
高校については、大学共通テスト用にAIをチューンナップさせていますので反映ができます

AIドリル作成

あらゆる教科を自動問題作成・自動テスト作成 教科書の該当ページの問題も瞬時に自動作成！

解答方式を設定して、問題テーマを設定すれば簡単に問題を作れます。

自動登録

アンケートも自動作成できます。

eラーニング作成

ペーパーテスト作成

◆成績処理

●学習カルテ

学習カルテで学習状況の分析

クラスの状況、個人の状況を分析することができます

クラス全体の状況

クラス成績表

個人の状況

どの教科をどのくらい学習したか把握できます

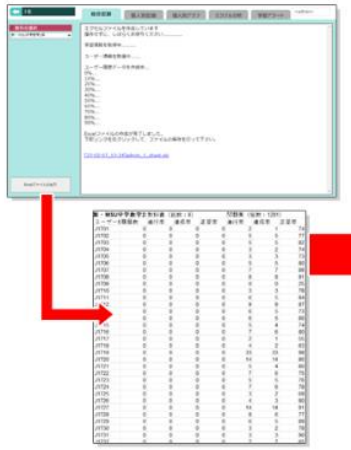
学習アラート

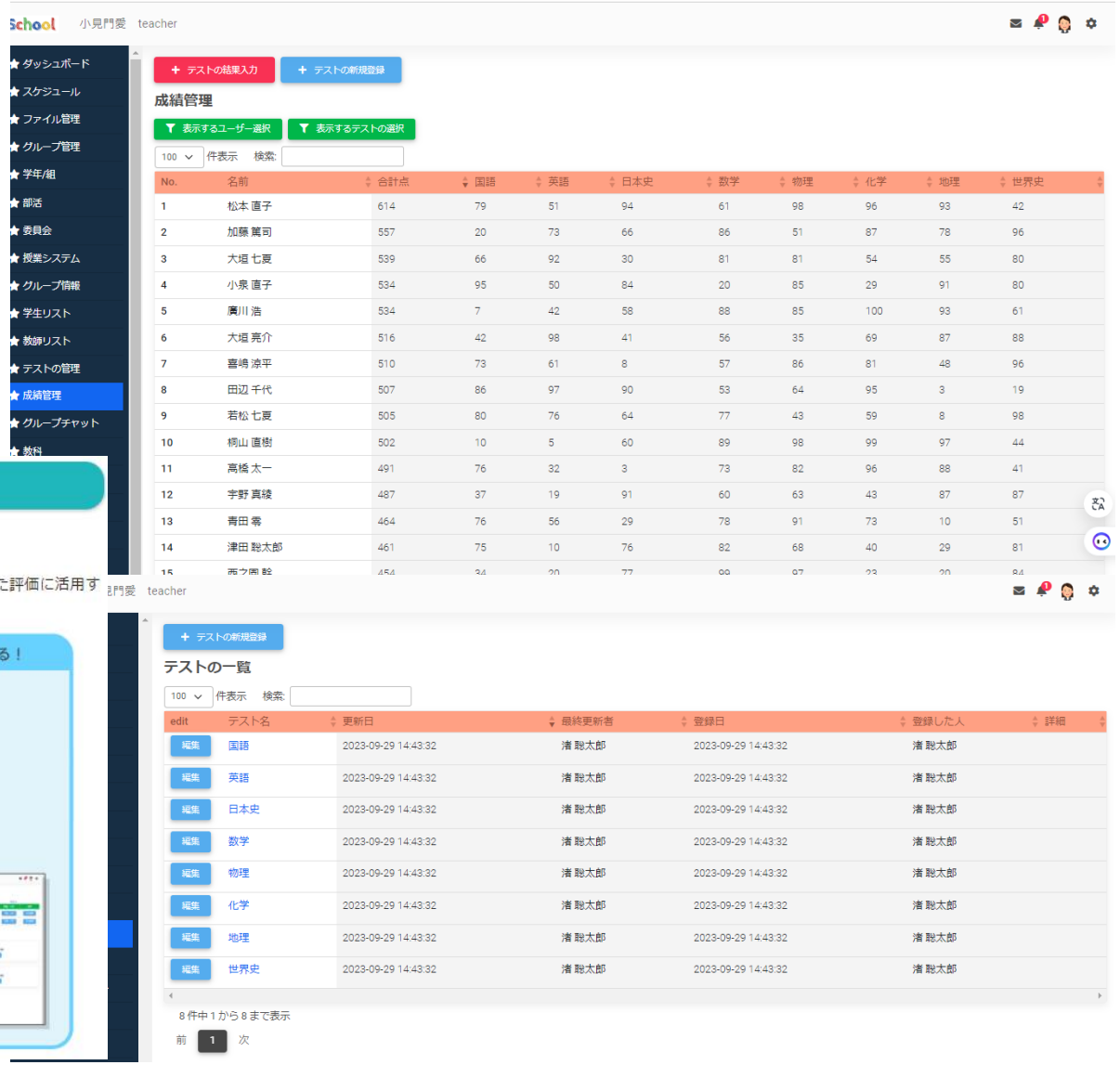
学習していない人を明示します

児童生徒の学習成果物を一元管理

学習成果物を一元管理。簡易校務支援「スクステ」も無償で活用できます！

学習記録をEXCELファイルに書き出すことができます。
無償で利用できる簡易校務支援「スクステ」と連動し、児童生徒別に一元管理され、普段の指導や学期を通じた評価に活用することができます。





導入実績および事例の紹介

【本事業においてサービスを導入した実績】

<学校等教育機関>

私立中学校様・・・・・・・・・・・２校

私立高等学校様・・・・・・・・・・２校

県立高等学校様・・・・・・・・・・６校

計　１０校

<学校等設置者>

県教育委員会様・・・・・・・・・４団体（上記県立高校含む）

【導入事例】

埼玉大学教育学部附属中学校　技術科

授業テーマ

ロボコンに参加する。ロボットで城を作る。
充電式電動ドライバーの動力伝達の仕組みを調べる。

生徒は、コネクトシート上で、ChatGPTによる検索やネット上の画像や資料の貼り付けをし、それをもとに編集しながらシートをまとめていきます、まとめたシートを自分の考え、調べの成果として先生に提出します。

画　面

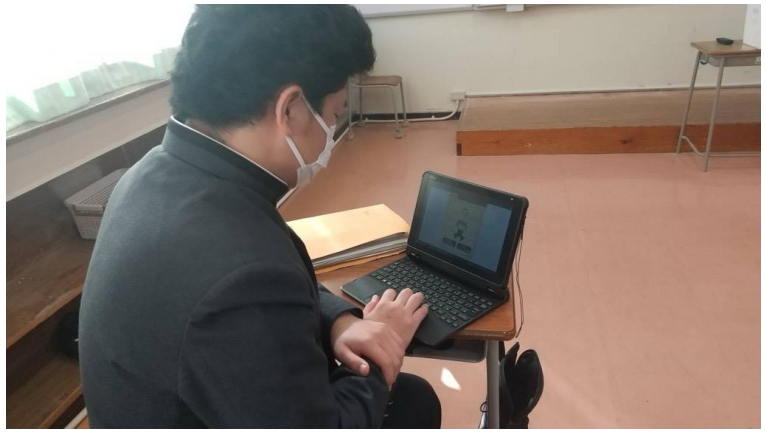
学校活動支援サービス導入による成果

【導入による成果】

<教職員>

・夏休みや、自習授業の際にドリルコンテンツ教材を活用した
使い勝手が良く、演習が途中まででもよく少しずつできるので、
隙間時間での利用ができるのがよい
学力アップに貢献できたと思う

・これまでは時間をかけて頭を悩ませながら問題を作っていたが、
Chat GPTで演習問題が効率よく作成できたのが非常によかった



<生徒>

・単語ドリル演習は取り組みやすく、課題を自分で選択できたのは
学習意欲がアップしてよかったと思う

・AIと会話ができることで、苦手な英語も身近に感じられるように
なった

・ゲーム感覚のドリルコンテンツが豊富で学習が楽しく感じた

サービス導入にあたっての課題とその改善策

【課題とその改善策】

・具体的な活用方法がわかりづらく、使いづらい

⇒教員向け研修会開催を積極的にお呼びかけいたしましたが、数校の開催にとどまりました
中学、高校一般、ではない、用途に沿ったパッケージ化を図ることと、
導入中も機能の改善やアップデートが頻繁に行われており書面によるマニュアルの提供が難しいため、
動画による研修の必要も感じましたので、早速着手をいたします
ICTが苦手な教職員様でも操作できる、例をあげれば、音声認識機能も装備しており、
苦手でも操作できるというところをさらに強くアピールしていきたいと考えております

・画面上でAIを使うよりも、自分のスマホでChat GPTを使ったり、Google検索する方が慣れもあって速くできるので、活用メリットを感じなかった

⇒ラーニングスケルトンAIを活用すると、通常のChat GPT使用では得られないメリットがあること
の訴求が不足していた。また、そのメリットが業務効率化につながることも伝達しきれなかったと
思いますので、この点の伝達、アピールについて真摯に取り組んでまいりたいと考えております

サービスを利用した児童・生徒・教職員等のコメント

【生徒・教職員のコメント】

<生徒>

・ゲーム形式のドリルがあったが、小中学生向きで高校生には少し合わないように感じた

・数学Ⅰの教材は共通テストのような形式で難しかった

・すでに複数のサービスやアプリを使っていて、IDやパスワードがさらに増えて管理が大変になる

<教職員>

・導入が年度途中であったため、すでに使用中のサービスやアプリがあり、活用方法を新たに習得しようと思うには至らず、業務や授業に取り入れるのは難しかった

・学習状況やレベルに応じて問題を提示してくれるのはよいと思った

・ドリルコンテンツの種類が豊富でいろいろな教科で使える

会社概要

社名

株式会社メディア・ファイブ

本社

〒330-0064
埼玉県さいたま市浦和区岸町5丁目14-9

創業

1992年 6月

設立

1993年 11月

業務内容

コンピュータソフトウエアの開発・販売、書籍の出版 デザイン・経営コンサルティング・広告代理業・ネットワークサービス 当社は、ネットワーク時代、 マルチメディア時代に向けた ゲームソフト、教育ソフト、 経営シミュレーションソフト、 電子出版、Webデザインの企画・設計・開発、 経営コンサルティングを主業務として設立された会社です。